

**沖縄市
教育・保育施設等における
セルフチェックリスト**



沖縄市 保育・幼稚園課
令和8年7月

はじめに

沖縄市セルフチェックリストは、教育・保育施設で働くすべての職員が、子どもたちの人権を大切にし、一人ひとりの人格を尊重しながら、より良い保育を目指すためのチェックリストです。

日々忙しく子どもたちとかかわる中で、つい子どもの気持ちに寄り添えない場面や、時間を優先してしまうこともあるかと思います。そうした際に、少しでもこのチェックリストを思い出し、「気づき」や「より良い教育・保育」につなげていただければ幸いです。

本リストは、現場の先生方の意見をもとに、「良くないと考えられるかかわりの内容」「良くないと考えられる理由」「より良いかかわりのためのポイント」を整理して作成しました。

なお、ここに示した内容はあくまでも「より良いかかわり」を考えるための参考です。実際には、子どもたちの様子やその時の状況、環境などは一人ひとり異なります。目の前の子どもたちの姿を最優先に考え、それぞれの場面に応じた柔軟な対応のためのヒントとして活用してください。

チェックリストを通して、自分自身のかかわりを振り返ったり、園内研修等での対話を通じて職員間の共通認識を深めたりすることで、日々の教育・保育に生かしていただきたいと考えています。

活用方法

- セルフチェックをおこない定期的に自らのかかわりを振り返る。
- 園内研修等で使用し「子どもの人権」について職員同士共通認識をもつ。
- 最後に、チェックした項目を振り返り、子どもとかかわる際のポイントや目標を記入して、今後の保育に活かす。

登園時のかかわり

No.	良くないと考えられる かかわりの内容	過去半年以内に	良くないと考えられる理由	より良いかかわりのためのポイント
1	登園時に泣いている子や不安な様子の子に対し、「赤ちゃんみたい」「もうお兄ちゃんでしょ」「泣いてたら遊べないよ」などの言葉かけをする。	☐ していない ☐ している (したことがある)	保護者と離れる不安や子どもの気持ちに寄り添えていない。 否定的な対応や大人の価値観を押しつける対応。	「離れるのが寂しかったんだね」「どうしたの？」など優しく言葉かけし気持ちに寄り添う。 「こんな楽しいことがあるよ」など期待を持って登園できるように援助する。
2	挨拶の声が小さいと「もう一度」と繰り返させたり、挨拶をしない子に「挨拶は？」と強く求める。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもなりの頑張りを十分に認めていない。 挨拶が負担になり、登園への気持ちに影響することがある。	保育者が率先して元気な挨拶を行うことで見本となり、子ども自身が気づけたり気持ちの切り替えのきっかけにつなげる。
3	登園が遅い子に対し「遅いよ」「なんで早くこれないのかな」などの否定的な言葉かけをする。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子ども自身に責任がない場合もあったり、大好きな親を否定されたように感じ、適切な言葉かけとは言いにくい。	「来てくれて嬉しいよ」「待っていたよ」と登園できたことを受け止め、保育園への期待が持てるような働きかけをする。 子どもの前では保護者への気になる点を話さず、必要なことは保護者に直接伝える。
4	子どもの受け入れ時、挨拶や笑顔がなく、元気がない。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもや保護者に不安を抱かせ、信頼関係を築きにくくする。	明るい表情と穏やかな声や丁寧なあいさつを心がけ、子どもと保護者が「ここで大丈夫」と思える安心できる雰囲気をつくるよう努める。

クラス活動・合同・園外活動でのかかわり

No.	良くないと考えられる かかわりの内容	過去半年以内に	良くないと考えられる理由	より良いかかわりのためのポイント
1	トラブルの際、一方だけを責めたり、謝罪を強要したりする。(年長だけを我慢させるなど)	☐ していない ☐ している (したことがある)	双方の気持ちや事情に寄り添えていない。	まずは話を聞き、状況と気持ちを丁寧に確認する。年齢や立場だけで判断せず、それぞれの思いを受け止めながら仲立ちする。
2	できないことを責めたり、やりたくない活動を無理強いする。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもの自信や意欲を損ない、活動そのものへの苦手意識につながりやすい。	子どもの様子を見ながら、見通しが持てるように伝える。言葉かけや段階的な支援で、少しずつ経験を重ねられるようにする。その子なりの参加の仕方も認める。
3	大声や大きな泣き声を出している時に何も伝えずに別の場所へ移動させる。	☐ していない ☐ している (したことがある)	気持ちに寄り添えておらず、不安や混乱につながる。	まずは気持ちを汲み取り代弁するなど、安心できるかかわりをおこなう。移動が必要な場合には理由を伝え、落ち着ける場所や方法を一緒に考える。
4	製作に使う画用紙や折り紙の色を指定しすぎたり、出来栄を重視して子どもの作品に手を加えたり描き直しをさせる。	☐ していない ☐ している (したことがある)	表現の自由や自己肯定感を損ないやすく、子ども自身の工夫や思いが十分に尊重されていない。	その子なりの表現を大切にし、プロセス(過程)や工夫を具体的に言葉にして認め、取り組む姿勢や楽しさを共有する。

食事（給食やおやつ）の時のかかわり

No.	良くないと考えられる かかわりの内容	過去半年以内に	良くないと考えられる理由	より良いかかわりのためのポイント
1	子どもの頑張りを認めず、デザートなどを減らす。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもの努力や気持ちへの配慮に欠け、食事の時間が負担や罰のように感じられる。	一人ひとりの食べられる量を把握し、完食できた事や少しでも食べられた頑張りを認める。食べる楽しさや達成感が味わえるように励ます。
2	子どものペースを待たず、次々に口に運ぶ。	☐ していない ☐ している (したことがある)	「自分で食べる」意欲を削ぎ、受け身の食べ方になりやすく、子どもの自立や主体性を育てにくい。	子どものタイミングや咀嚼のペースに合わせ、必要に応じて見守る。自分で食べられるよう、適切なタイミングで言葉かけや援助を行う。
3	食事が遅い子に対して早く食べるよう急かしたり、少食の子に完食を強要する。	☐ していない ☐ している (したことがある)	食事の時間が苦しい経験になり、食べることへの苦手意識につながりやすい。	事前に相談し、本人の食事量に合わせて量を調整する。時間内に食べられる見通しを持てるよう、必要に応じて終わる時間を知らせるなど、子ども自身が意識できるようにする。
4	食事の準備や片付けに取り組めない子に、否定的な言葉かけをする。	☐ していない ☐ している (したことがある)	自信をなくしたり、次への意欲が下がってしまう。	まわりの子様子を伝え、食事準備や片付けの流れがわかるようにする。必要に応じて支援し、できたことを具体的に認め、安心して少しずつ取り組めるようにする。

お昼寝の時のかかわり

No.	良くないと考えられる かかわりの内容	過去半年以内に	良くないと考えられる理由	より良いかかわりのためのポイント
1	強めに“トントン”（背中を叩く）する。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもが安心してできず、身体的な苦痛につながる。	子どもが安心して眠れるよう、優しい声かけや“トントン”の強さに気を付ける。部屋の明るさ、音、室温、寝具などの環境にも配慮する。
2	おもらしをした事を責めるような言い方をする。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもが恥ずかしさを感じたり自信を無くしたりし、失敗を恐れプレッシャーになってしまう。	気持ちに寄り添いながら、周囲に気づかれにくいように着替えや清潔のケアを行い、安心して次の活動に向かえるようにする。
3	眠れない子に睡眠を強要する。	☐ していない ☐ している (したことがある)	一律に睡眠を強要することは個々の気持ちや発達を尊重したかかわりとは言いにくい。	「眠ること」を目的とするのではなく「心身を休める時間」と捉え、静かに横になることの大切さを知らせたり、安心して過ごせる言葉かけや見守りを行う。
4	静かに横になることが難しい子の布団を強引に片付けたり移動させたりする。	☐ していない ☐ している (したことがある)	強引な対応により、個人への配慮に欠け、午睡への不安が強まりやすい。	なぜ静かに横になることが難しいのか、その理由や背景を丁寧に把握し、一人ひとりに応じた静かにできるような寄り添いやかかわり方、休息方法を工夫する。

着替えやトイレでのかかわり

No.	良くないと考えられる かかわりの内容	過去半年以内に	良くないと考えられる理由	より良いかかわりのためのポイント
1	「トイレ行ってきて」「今はトイレの時間です」と、一方的に排泄を促す。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもの気持ちや体調、タイミングへの配慮に欠ける。	年齢や個々の様子に合わせて、排泄のタイミングに配慮しやさしく促す。
2	失敗した子に「さっき言ったのに」「赤ちゃんみたい」と言う。	☐ していない ☐ している (したことがある)	自尊心を傷つけ、自信を失いやすくし、排泄や着脱への不安や抵抗感を強める。	失敗を責めず「着替えたらさっぱりするよ」など安心できる言葉をかけ、必要に応じて、周囲に気づかれにくいよう配慮しながら、さりげなく援助する。
3	子どものペースや気持ちを聞かずに保育者が着替えさせてしまう。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもの気持ちや、できることへの配慮に欠ける。	子どもが自分でできることは見守り、援助が必要など確認しながらすすめていく。
4	集団で着替えることを嫌がる子に、みんなと一緒に着替えるよう促す。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもの中には羞恥心を感じる子もいることへの理解や配慮に欠ける。	友達と一緒に着替えることに難色を示す子には、安心して着替えられる場所やタイミングなどに配慮する。

お迎え時のかかわり

No.	良くないと考えられる かかわりの内容	過去半年以内に	良くないと考えられる理由	より良いかかわりのためのポイント
1	お迎えが遅い子に対し「まだ来ないね」「遅いね」など、不安を煽る言葉をかける。	☐ していない ☐ している (したことがある)	お迎えを待つ時間を不安な気持ちにさせる。	不安を否定せずに受け止め、見通しを伝えながら、「お仕事頑張ってるね。待っている間、何して遊ぶ？」などの言葉かけを行い、安心して待てるように寄り添う。
2	プライベートに関わることなど(気になる行動・園児同士のトラブル・提出物の遅れ等)、周りを気にせず伝えてしまう。	☐ していない ☐ している (したことがある)	保護者や周りの気持ちに配慮が欠けたかかわり。	状況をしっかり考え、上司や先輩に相談や確認した上で話をしたり、必要に応じて場を設けるなどの配慮を行う。
3	お迎えが来た際、特定の子どもや保護者とのやりとりが長い。(他の子どもや保護者への配慮に欠ける)	☐ していない ☐ している (したことがある)	公平性や配慮に欠け、待たされている親子に疎外感や不信感を与える。	時間がかかる場合は別の機会を設けるなど、送迎時にはできるだけ多くの保護者に「おかえりなさい」「さようなら、また明日ね」などの言葉かけを行う。
4	お迎えが来た子どもに対し、急かすように準備を促す。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもがあせってしまい、安心して降園の準備をしにくくなる。	お迎えが来た際の子どもの気持ちに寄り添いながら「靴をはこうね」「荷物を持とうね」など、次の行動をわかりやすく伝え、落ち着いて準備できるようにする。

預かり保育でのかかわり

No.	良くないと考えられる かかわりの内容	過去半年以内に	良くないと考えられる理由	より良いかかわりのためのポイント
1	大人の都合で活動（あそび）を中断する際に説明をしない。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもの主体性や遊びの継続性を損なう。	できるだけ、子どもの主体性や遊びが尊重できるよう環境設定等に配慮する。中断せざるを得ない場合は、中断の理由を子どもたちの発達に応じたわかりやすい言葉で丁寧に伝える。
2	疲れて横になりたい子に「みんなと遊びなさい」と活動を強制する。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもの体調や気持ちに寄り添えていない。	個々のペースや体力を考慮し、できるだけ安心して過ごせる環境や時間を選択できるようにする。
3	子ども達の聞こえるところで家庭環境や状況の話しをする。	☐ していない ☐ している (したことがある)	プライバシーや子どもの気持ちへの配慮に欠けている。	子どものプライバシーを最優先に考え、家庭状況や個別の支援内容については、必ず子どもがいない、かつ周囲に声が漏れない適切な場所で共有をする。
4	保育者が片付けや事務作業を優先してしまう。	☐ していない ☐ している (したことがある)	保育者との信頼関係や安心感が十分に育ちにくい。	作業中も「見てるよ」と視線を向けたり「すごいね」など声をかけ、応答的な関わりを維持したり、できる限り子どもとのかかわりを優先する。

その他

No.	良くないと考えられる かかわりの内容	過去半年以内に	良くないと考えられる理由	より良いかかわりのためのポイント
1	「男の子なんだから泣かない」など、性別による固定観念を押しつける。	☐ していない ☐ している (したことがある)	性別にとらわれた見方になり、多様性やその子自身の個性や気持ちを尊重していない。	性別や固定観念にとらわれず「悔しいんだね」「頑張ったね」と感情や個々の気持ちを尊重する。
2	「～しないと、～できないよ。」や「○○できないと、一年生になれないよ。」といった促し。	☐ していない ☐ している (したことがある)	脅かすような言葉かけで不安感を与え、自分でやろうとする意欲を損ないやすい。	取り組むことが難しい時は、大人も一緒に取り組んだり、子どもが希望や目標が持てたり、心を動かすような言葉をかける。また、自分から行動できるような、前向きな気持ちを育めるように意識する。
3	「オニさん来るよ」「おいでくよ」などの子どもを脅かす発言をする。	☐ していない ☐ している (したことがある)	子どもに恐怖心や不安を与える。	行動などを促す際は、脅しや強い言葉で従わせるのではなく、具体的な説明や選択肢を示したり、落ち着いた言葉かけや肯定的なかかわりを心がける。
4	特定の子だけを優遇する。	☐ していない ☐ している (したことがある)	不平等感を生み、子ども同士の関係や集団の安心感を損ないやすい。	すべての子どもが安心して教育・保育施設で過ごせるよう、公平性を意識しながら個々に応じたかかわりを行う。

振り返り

チェックを通して、気づいた点や自己評価を行い振り返る中で、かかわる際のポイントや目標とするかかわりを記入しましょう。

前期 **年** **月** **日**

○自己評価（気づいたことや感じたこと）

○目標とするかかわり

後期 **年** **月** **日**

○前期の自己評価をふまえての後期の評価

○年間評価及び次年度目標